

トヲ處理セシム、此等ノ制、後世悉クハ行ハレザリシカドモ、ナホ其待遇ハ自餘ノ親王皇子ニ超出現、而シテ其妃ハ、中世以後多クハ女御、又ハ御息所ト稱セリ。

上古、太子ヲ立ツルコト、必ズシモ一人ニ限ラザリシガ、其後定メテ一人トナシタリ、此等ノ太子ハ皆皇子ヲ立ツルヲ例トセシカドモ、種々ノ事情ニヨリテ、必ズシモ然ラザルアリテ、或ハ皇女ヲ太子トシ給ヒシアリ、聖武天皇ノ孝謙天皇ニ於ケルガ如キ是ナリ、皇孫ヲ太子トシ給ヒシアリ、持統天皇ノ文武天皇ニ於ケル、元明天皇ノ聖武天皇ニ於ケル、醍醐天皇ノ慶賴王ニ於ケルガ如キ是ナリ、皇兄ヲ太子トシ給ヒシハ、顯宗天皇ノ御兄仁賢天皇ヲ皇太子トシ給ヒシノミナレドモ、皇弟ヲ太子又ハ太弟トシ給ヒシハ、履中、天智以下、後光明、後西院天皇等極メテ多シ、或ハ從兄弟ニシテ、太子トナリ給ヒシアリ、一條、三條、伏見天皇等ナリ、再從兄弟ニシテ太子トナリ給ヒシハ、光明天皇ノ太子成良親王アリシノミ、其他成務、推古、圓融、兄弟ニシテ太子トナリ給ヒシハ、光明天皇ノ太子成良親王アリシノミ、其他成務、推古、圓融、後櫻町等ノ天皇ハ、皇姪ヲ太子トシ、三條天皇ハ從姪、後醍醐天皇及ビ小一條院等ナリ、三從兄弟ノ御子ヲ太子トシ給ヘリ、殊ニ異例ナルハ、六條天皇ノ其叔父高倉天皇ヲ太子トシ、孝謙天皇ノ其族叔祖父道祖王、大炊王ヲ太子トシ、稱德天皇ノ其再族伯祖父光仁天皇ヲ太子トシ給ヒシ類ナリ、蓋シ是等ノ諸例ハ、皇子ノオハセヌニ因レルモ多ケレド、或ハマタ種々ノ事情ニヨリテ、勢止ムヲ得ザルニ出デシモ尠ナカラズ、彼ノ兩統更立ノ如キモ、亦當時ノ情勢已ムヲ得ズシテ遂ニ斯ル變體ヲ生ゼシモノナルベシ、

立太子ノ年齢モ亦種々ニシテ一樣ナラズ、其極メテ幼冲ナリシハ、聖武天皇ノ皇子、及ビ安徳、仲恭、後深草天皇等ニシテ、何レモ御誕生後數十日ニシテ太子ニ立チ給ヒタリ、之ニ反シテ年長ニシテ太子ニ立チ給ヒシハ、反正天皇五十 安閑天皇四十 天武天皇四十 光仁天皇十六 十六